

RECEIVED



The 42nd
特別展

2025 —
9.27^{SAT}
12.7^{SUN}
OPEN 9:00-17:00

縄文文化の謎を考える

—パプアニューギニアの民族誌—

JOMON



日・パプアニューギニア
外交関係樹立 50 周年記念



WASEDA University
早稲田大学

山梨県立考古博物館
Yamanashi Prefectural Museum of Archaeology

第42回 特別展

PAPUA×JOMON

縄文文化の謎を考える —パプアニューギニアの民族誌—

南太平洋に位置するパプアニューギニアは、オセアニア州に属する一万近くの島々で成り立つ広大な島国で、熱帯雨林や火山といった、厳しくも多彩な自然環境が織りなす独自の文化で知られています。中でも「プリミティブ・アート（部族芸術）」と総称される PNG（パプアニューギニア）アートには、800を超える部族の歴史と信仰が刻まれており、アフリカン・アートや日本の縄文文化を彷彿とさせるような躍動感あふれる美しいデザインが今なお息づいています。本展では、早稲田大学考古学研究室が長きに渡り調査・研究してきたパプアニューギニアの民俗資料とともに、多種多様な日本の縄文資料を比較紹介することで、遠く離れた両地域における儀礼や精神文化の共通性を探りながら、縄文文化を新たな視点から深掘りします。



写真提供：PNG ジャパン

表面画像（上から）：タラカヌーの軸先飾り ミルンベイ州 早稲田大学蔵 / 複製 土偶 蔭内遺跡※原品は重要文化財（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター蔵 / 山梨県指定文化財 顔面装飾付土器 海道前 C 遺跡 山梨県立考古博物館蔵 / 背景写真提供：South Pacific Tourism Organisation (SPTO)

裏面画像：I 王ニ神の彫像・II 長老の腰掛・III 儀礼用仮面土器・IV 精霊の仮面・V 桶（イーストセベック州）・VI 豚の置物 早稲田大学蔵

観覧料

一般・大学生 600 (480) 円

小・中・高校生 無料
県内在住の 65 歳以上の方

※（ ）内は 20 名以上の団体料金

※障がい者手帳をお持ちの方と付き添いの方 1 名無料

休館日 毎週月曜日

〔10月13日・11月3日・24日は開館〕

開館時間 9時～17時

〔入館は16時30分まで〕

主催

山梨県立考古博物館

共催

早稲田大学

後援

パプアニューギニア大使館 / 国際機関太平洋諸島センター (PIC) / 朝日新聞甲府総局 / エフエム甲府 / エフエム富士 / 産経新聞甲府支局 / テレビ朝日甲府支局 / テレビ山梨 / 日本ネットワークサービス / 毎日新聞甲府支局 / 山梨新報社 / 山梨日日新聞社・山梨放送 / 読売新聞甲府支局 / 曾根丘陵公園指定管理者 富士観光開発・富士グリーンテックグループ

協力

外務省 / 太平洋観光局 (SPTO) / (有) PNG ジャパン / 山梨県立考古博物館協力会 / 縄文王国山梨実行委員会 / 甲信縄文文化発信・活性化協議会



写真提供：PNG ジャパン



V

ACCESS —交通アクセス—



山梨県立考古博物館
Yamanashi Prefectural Museum of Archaeology

〒400-1508 山梨県甲府市下曾根町923
TEL 055-266-3881 FAX 055-266-3882
✉@yamanashi_kouko ㊚@yamanashi.kouko1103



写真提供：South Pacific Tourism Organisation (SPTO)

参加無料
要予約

現地・オンライン同時開催

記念講演会

📍 現地会場：風土記の丘研修センター

10.26 日 10:00-15:00
〔中休みあり〕

基調
講演

高橋 龍三郎 館長（早稲田大学名誉教授）
「パプアニューギニアの民族誌の調査」

講演

中門 亮太 氏（早稲田大学文学部准教授）
「オセアニアの民族造形（仮）」



IV

平原 信崇 氏（千葉県教育庁教育振興部文化財課）
「縄文土器とパプアニューギニアの土器作り（仮）」

根岸 洋 氏（東京大学文学部准教授）
「パプアニューギニアの考古学（仮）」

申込
方法

9月27日（土）よりホームページまたは電話（☎055-266-3881）にて申し込みを受け付けます。また、オンライン配信へのご予約はホームページのみでの対応となります。